



チーフ・ストラテジスト 神山 直樹

投資ってなんだ!?と聞かれれば、引退後に「潤いのある暮らし」を目指すこと、と答えます。なぜなら、“普通に生きる”ことの中に、“投資”が組み込まれていることが正しいと思うからです。日本では、多くの方が“文化的な最低限の生活”を保障されていますので、引退後の「潤いのある暮らし」で消費する(お金を使う)ために、無理のない範囲で投資はしておいた方が良く思うのです。

## 投資は「お金を持っている人」がやるものじゃないの？

投資は「お金がないから」「お金持ちじゃないから」やらない、とよく耳にします。でも、お金持ちになってから投資する、というのはちょっと変ですよ。

投資は、お金が余っている人のゲームではなく、ご自身が齢を取るなどの理由で、引退後に「潤いのある暮らし」を目指すためにある、と捉えた方が適切ではないでしょうか。

資金に余裕がない、知識がないから投資をやらないということは、もともと資産がある人がそれほど必要がないけれど「趣味」として楽しむもの、と思われているのかもしれませんが。引退後の「潤いのある暮らし」は誰にでもあった方が良く思うのに…。

## 「お金が減るのはいや」「リスクを取りたくない」、でもリスクを取ったほうが良い理由

誰しも、減っては困る、リスク(振れ幅)が取れない、といったお金を貯蓄されていると思います。例えば、食費や子どもの学費といった“必ず必要なお金”は、預貯金などに預けられているでしょう。また、多くの人は

将来の生活費や医療費などを、すでに備え始めていると思います。そして、この備えを越えた部分のお金に、少額からでも“潤い”のために働いてもらうのです。

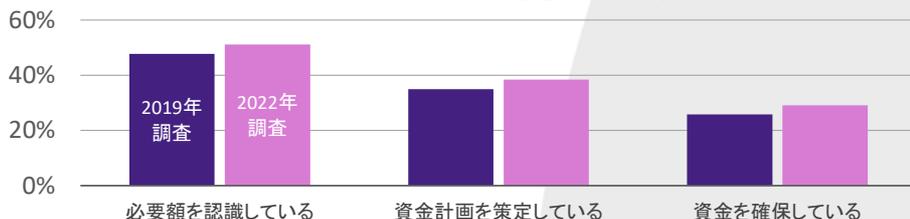
投資は、引退後の「潤いのある暮らし」、直感的には歳を取ってから普段と少し違ったことができる生活をするを目的に、30、40、50歳代から何をしておこうかと考えることに始まります。投資で未来に消費するお金を作っていきたいのです。

備えを越えた部分のお金は(少し乱暴かもしれませんが)「減っても最悪の事態には至らない」と思いますので、リスクを取っても良いのではないのでしょうか。

世界経済が成長していくと信じるならば、“潤い”部分でのリターン獲得を、世界中のビジネスの成功に任せていけるのです。ただし、長期的に世界経済や事業が成長するとしても、一時的(≒短期的)に良くなったり悪くなったりすることがあります。これが投資のリスクなのです。

長期の経済成長を信じるならば、一時的な上下動であるはずの「リスクを取っても良い」と考えられるのではないのでしょうか。

### 老後の生活費について



50%程度の方が必要額を認識しているようですが、資金計画を策定している人は40%弱、さらに資金を確保している人は30%に満たないようです。

2019年調査:実施期間2019/3/1~3/20、対象は全国の18-79歳の個人2.5万人、インターネット・モニター調査  
2022年調査:実施期間2022/2/25~3/14、対象は全国の18-79歳の個人3万人、インターネット・モニター調査

(金融広報中央委員会「金融リテラシー調査」をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)

●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。